

りんどう半促成栽培における生産力維持に及ぼす残茎数の影響

【 1 成果概要】

(1) りんどう半促成栽培では採花時に 2 本以上の茎葉を残すと生産力維持効果があります。

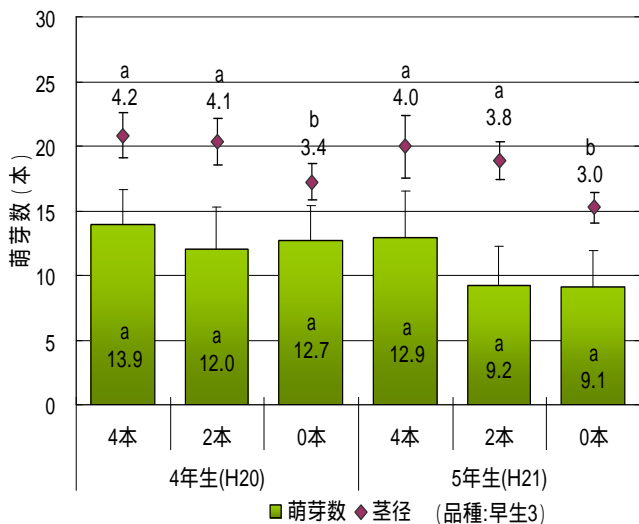


図 1 残茎数と翌春の萌芽数及び茎径(H20,21)

図中のエラーバーは標準誤差。アルファベットの同一文字は同一株齢において 5%水準で有意な残茎数間差がないことを示す (Tukey 法)

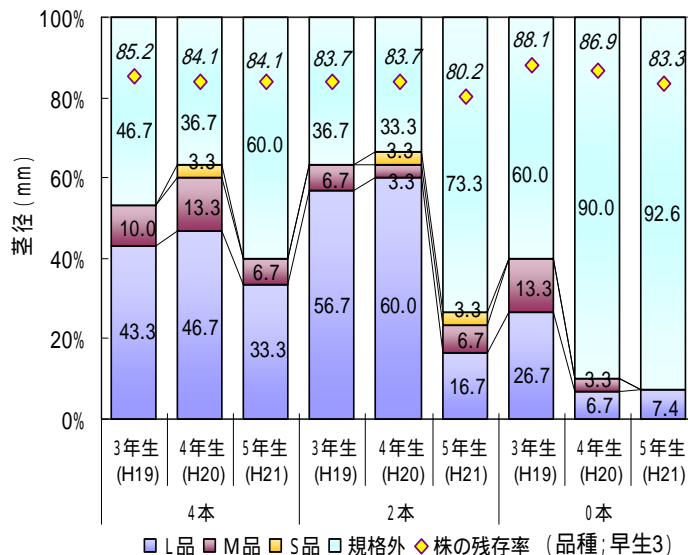


図 2 残茎数と出荷規格別割合及び株の残存率の推移

【 2 効果】

- (1) 採花時に 2 本以上の茎葉を残すと S 規格以上の切り花を多く確保できます。
- (2) 翌春に萌芽する越冬芽が太くなる傾向が認められます。

【 3 留意事項】

- (1) 残茎が 2 本以上の場合でも採花 3 年目には株の生産力低下が認められます。
- (2) りんどうの半促成栽培における生産力低下は残茎数以外の要因も関与していると考えられるので、他の要因の影響についてはさらに検討する必要があります。



図 3 採花期の生育状況 (採花 3 年目 ; H21.6)